

# 適性検査Ⅰ

注 意

- 1 問題は **1** のみで、5 ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は四十五分で、終わりは午前九時四十五分です。
- 3 声を出して読むはいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、解答用紙だけを提出しなさい。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 受検番号を解答用紙の決められたらんに記入しなさい。

東京都立両国高等学校附属中学校

1 次の文章1と文章2を読み、あとの問題に答えなさい。(＊印のついている言葉には、本文のあとに〔注〕があります。)

## 文章1

① 子どものころからずっと、外国のいろいろな土地を旅してみたいと思ってきました。

大学生になってまもなく、ぼくは夢の実現にむけて行動を開始しました。なかまを集めて、探検部をつくったのです。同じような夢をもつなかまが十人以上も集まりました。

まずはみんなで、本格的な探検にむけて、国内の山登りや川下りの練習をつみます。海外遠征を目標に、一年間に百日以上も山や川ですごしたこともありました。

トレーニングを続けながら、外国の<sup>\*</sup>辺境地帯を探検した人に会っては、いろいろと話をきき、本を読んで情報は集めました。自分で資金をつくるために、さまざまなアルバイトもしました。とにかく探検にでて、いままでとちがう環境に自分をおいてみたかったです。自然環境もそのほかの文化も、日本とはまるでちがうところへ行つて、いまままで知らなかった世界を見てみたい、そこに自分をほうりこむことで、いまままで気づけなかった、意外な自分自身が見えてくるのではないだろうか、そんなふうに思っていました。

やがて、ぼくの心の中に、目的地が見えてきました。地球上でもっとも未知な部分を残している、<sup>\*</sup>南米大陸を流れる世界最大の<sup>\*</sup>大河アマゾンです。アマゾン探検の実現を目標に、大学を一年<sup>\*</sup>休学して現地に入ったのは、大学三年生、一九七一年のことでした。

この最初の旅で、ぼくは南米大陸の魅力にとりつかれました。以来、二十年以上も、南米大陸に通いつづけることになりました。

ギアナ高地、パタゴニア、アマゾン、オリノコといろいろな場所をおとずれ、いくつもの村をたずねました。狩りにつれていってもらったり、魚を捕りにいったり。畑仕事に参加し、祝いの席ではともに歌い、踊ります。

彼ら<sup>\*</sup>インディオたちにとつて、ぼくは、日本というどこか遠い所からやってきた、なんの役にもたたない居候です。でも、彼らはぼくを受け入れ、安全にすごせるように気を配ってくれました。食べ物も、「さあ、これを食べてみる、うまいぞ」と、いちばんおいしいところをわけてくれます。

② こんなに親切にしてもらっても、ぼくはなにもしてあげられない。彼らにたいして、申しわけないという思いがつのつてきます。

なにかぼくにできることはないだろうか。そんなときに、病気で苦しむ子どもの姿が目にはいりました。村の生活でぼくのいちばんの友達<sup>ともだち</sup>は子どもたちでした。いっしょに森にはいって、木の実やフルーツ集めをしたり、魚を捕ったり、虫を捕ったり。好奇心<sup>こうきしん</sup>いっぱいの子どもたちは、いろいろなことを教えてくれます。

その子たちが、日本でならば、薬ですぐに治るような病気で苦しむ、ひどいときには命さえも失っているのです。医者になって、この子たちを救いたい——ぼくは医者になることを決意しました。

そして、また受験勉強をして、医学部にはいりました。医学部の学生時代も、医者になってからも、もちろん南米大陸に通いつづけたのです。こうして南米大陸の魅力にとりつかれたことがきっかけで、ぼくはいま、人類の足とりをたどる旅に出発することになったのです。

〔注〕 辺境地帯——国の中心から遠くはなれた土地。

南米大陸——南アメリカ大陸。

休学——学業を休むこと。

インディオ——南アメリカに以前から住んでいた民族。

居候——他人の家に世話になっている人。

パタゴニア グレートジャーニー 人類5万キロの旅①（関野吉晴「嵐の大地」による）

（次のページへ続きます。）

## 文章2

友情の関係における「待つ」ということについては、「三日会わざれば刮目して待つべし」という言葉がある。これは、三日会わずにいれば相手はその三日のうちに成長しているだろうから、それを見逃さずに心して会うようにすべきだという意味だ。

「こんなものだろう」というたかをくくった見方を捨てて、相手が常に向上する人間だという前提で見るということである。

お互いの成長を見逃さないような気持ちで「待つ」友がいるという気持ちだが、互いを成長させるのだ。

「今度会うときに成長した自分を見せることができるようにしておこう」という気持ちだが、友が心に住むということだ。③ 会わない時間に努力した跡は、友たち同士ならば、すぐにわかる。

僕が中学生のときに聞いた話だが、二人の画家の友人同士がいて、しばらく会わなかったが、ひさしぶりに片方が会いに訪ねてきた。しかし、\* あいにく友人の画家はるすで、部屋にはだれもいない。このまま帰ろうかと思ったが、みると何も描いていない。キャンバスがたてかけてある。彼は何を思ったか、そこで、絵筆をとり絵の具をつけて、たてにまっすぐ一本の線を引いて、そのまま帰った。

しばらくして、友人の画家が部屋にもどってみると、キャンバスに線が引いてある。それをみて、画家は、「ああ、あいつが来てたのか、会えなくて残念だったな。ずいぶん、あいつは上達したな」と思ったそうだった。一本の線を見ただけで上達がわかるなんて、かっこいい関係だ。ただ、絵画に詳しいからわかるんじゃないかと、お互いの今までの歴史をしっかりと、しかも両方が向上しているからわかるんだと思っ。

自分の向上を見逃さないでわかってくれる友の存在は、やる気をかきたててくれる。

予想しなかった新しい何かが生まれたり、別れた後に、元気が出て向上心がわくような関係は、それほどむずかしいことじゃないし、特別才能に恵まれた人たちだけのものじゃない。ふりかえれば、だれにでも、そういう関係はあったはずだ。

友情は、「向上心」を柱にして、お互いが「自己形成」の醍醐味を味わう関係だ。「ともに高めあう関係」をつくり、自己形成の道を一緒に歩んだ友情の関係性は、何ものにもかえがたい生涯の宝だと、僕は信じている。

(齋藤孝「スラムダンクな友情論」による)

〔注〕刮目——目をこすってよく見ること。注意して見ること。

心して——十分に気をつかうこと。

たかをくくった見方——たいしたことはない、相手を軽く見ること。

あいにく——つごうが悪く、残念なようす。

キャンバス——油絵をかくのに使う、布。

自己形成——自分自身をかたちづくること。

醍醐味——ものごとのおもしろさや楽しさ。

〔問題1〕

① 子どものころからずっと、外国のいろいろな土地を旅してみたいと思ってきました。とありますが、筆者が「旅」に期待していたことは何ですか。 **文章1** から読み取ったことを、四十文字以上五十文字以内で書きなさい。(、や。などもそれぞれ字数に数えます。)

〔問題2〕

② 彼らにたいして、申しわけないという思いがつのつてきます。とありますが、筆者が「申しわけない」と思うにいたったインディオたちの行動を、 **文章1** のことばを使って、三十文字以上四十文字以内で書きなさい。(、や。などもそれぞれ字数に数えます。)

〔問題3〕

③ 合わない時間に努力した跡は、友たち同士ならば、すぐにわかる。とありますが、「友たち同士ならば、すぐにわかる」のはなぜですか。その理由と考えられることを、 **文章2** のことばを使って、二十文字以上三十文字以内で書きなさい。(、や。などもそれぞれ字数に数えます。)

(次のページへ続きます。)

〔問題4〕

文章1

文章2

は、どちらも「成長」をテーマに、筆者の体験や意見が書かれています。二つの文章を読んで、あなたは自らを「成長」させるためには何が大切だと考えましたか。次の二つの条件を満たしながら、三百五十文字以上、四百字以内で書きなさい。

条件1 第一段落<sup>だんらく</sup>には、**文章1** **文章2** の要点をまとめること。

条件2 第二段落からは、あなたの経験をいまえた考えを書くこと。

記入上の注意

- 題名、名前は書かずに一行目から書き始めること。
- 書き出しや段落をかえたときの空らんや、や。や「などもそれぞれ一字に数えること。
- 段落の最初は、一字下げて書くこと。